



2011年度(2012年3月期) 第3四半期 決算説明会

2012年 1月31日

セイコーエプソン株式会社

©SEIKO EPSON CORPORATION 2012. All rights reserved.

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

開示セグメントの変更について

【2011年度】

- ものづくり基盤の再構築・強化を迅速に実行することを狙いとして、「電子デバイス事業セグメント」と「精密機器事業セグメント」を統合し、「デバイス精密機器事業セグメント」とする
- 「中・小型液晶ディスプレイ」のオペレーション終結を受け、2011年度以降発生する損益については「その他」に集約

【ビジュアルプロダクツ事業部(10月1日組織変更)】

- 映像分野における事業領域の拡大を確実なものとするため、「映像機器事業(プロジェクター)」「情報関連機器セグメント」と「TFT(HTPS)事業」<デバイス精密機器セグメント>を統合し、「ビジュアルプロダクツ事業部」<情報関連機器セグメント>とする

* 本資料では、上記内容について、
2010年度実績値 ならびに2011年度実績値、予想数値の補正を行った上で説明

■ 開示セグメントの変更内容

1. 概要

2. 詳細

決算ハイライト (9ヶ月累計)



| 9ヶ月累計 (億円) | | 2010年度 | | 2011年度 | | 増減 | |
|---------------|-----|---------|------|---------|------|------|--------|
| | | 通算 | % | 通算 | % | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | | 7,473 | - | 6,646 | - | -827 | -11.1% |
| 営業利益 | | 338 | 4.5% | 211 | 3.2% | -127 | -37.7% |
| 経常利益 | | 325 | 4.4% | 214 | 3.2% | -110 | -34.0% |
| 税引前利益 | | 261 | 3.5% | 86 | 1.3% | -175 | -67.1% |
| 純利益 | | 170 | 2.3% | 3 | 0.1% | -166 | -97.7% |
| EPS | | 85.11円 | | 2.04円 | | | |
| 換算 レート | USD | 86.85円 | | 79.01円 | | | |
| | EUR | 113.31円 | | 110.64円 | | | |

■ 2011年度第3四半期までの9ヶ月累計

- 売上高は 6,646億円、
営業利益は 211億円、
純利益は 3億円。
- 前年同期との比較では、
中・小型液晶ディスプレイ事業の終結、東日本大震災、タイ洪水、円高などの特殊要因により
売上高で 840億円、
営業利益で 180億円のマイナス影響。

決算ハイライト（第3四半期決算）



| (億円) | 2010年度 | | 2011年度 | | 増減 | |
|-----------|--------|---------|---------|------|------|--------|
| | 3Q実績 | % | 3Q実績 | % | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 2,680 | - | 2,391 | - | -289 | -10.8% |
| 営業利益 | 192 | 7.2% | 143 | 6.0% | -49 | -25.5% |
| 経常利益 | 176 | 6.6% | 153 | 6.4% | -23 | -13.4% |
| 税引前利益 | 127 | 4.8% | 85 | 3.6% | -42 | -33.2% |
| 四半期純利益 | 95 | 3.6% | 47 | 2.0% | -47 | -50.0% |
| EPS | 47.78円 | | 25.21円 | | | |
| 換算 レート | USD | 82.64円 | 77.41円 | | | |
| | EUR | 112.23円 | 104.33円 | | | |

■ 2011年度 第3四半期の実績

- 売上高は、前年同期比 289億円減収の 2,391億円、
営業利益は 49億円減益の 143億円、
四半期純利益は 47億円減益の 47億円。
- 前年同期との比較では、
主に、中・小型液晶ディスプレイ事業の終結に伴う売上高への影響と、欧米における景気低迷や、タイ洪水の影響、ならびに為替の円高などによる収益への影響。
- 第3四半期の社内計画に対しては、
売上高は、景気低迷ならびに中国におけるSIDMの 徴税需要が鈍化していることなどにより、情報関連機器において未達。
- 営業利益は、デバイス精密において、費用削減の効果もあり計画を上回ったものの、
情報関連機器において、売上高が計画に届かなかったこと、ならびにインクジェットプリンターにおける追加的な物流費の発生などにより、全社で下回った。

2011年度業績予想



| (億円) | 2010年度 | | 2011年度 | | | | 増減額 / 増減率 | |
|-----------|------------|-------------|-------------|------|-------------|------|-----------------------------------------------------------|---------------|
| | 実績 | % | 11/14予想 | % | 今回予想 | % | 前期 | 11/14 |
| | | | | | | | 実績比 | 予想比 |
| 売上高 | 9,736 | - | 9,070 | - | 8,800 | - | -936 -9.6% | -270 -3.0% |
| 営業利益 | 327 | 3.4% | 310 | 3.4% | 270 | 3.1% | -57 -17.5% | -40 -12.9% |
| 経常利益 | 311 | 3.2% | 290 | 3.2% | 270 | 3.1% | -41 -13.4% | -20 -6.9% |
| 税引前利益 | 153 | 1.6% | 190 | 2.1% | 150 | 1.7% | -3 -2.5% | -40 -21.1% |
| 当期純利益 | 102 | 1.1% | 80 | 0.9% | 50 | 0.6% | -52 -51.2% | -30 -37.5% |
| EPS | 51.25 円 | | 40.12 円 | | 26.06 円 | | | |
| 換算 レート | USD | 85.72 円 | 77.00 円 | | 78.00 円 | | 今回予想 4Qの予想前提レート USD: 75.00円 EUR: 100.00円 | |
| | EUR | 113.12 円 | 109.00 円 | | 108.00 円 | | | |

11/14予想 下期の予想前提レート
USD: 75.00円、EUR: 105.00円

■ 2011年度の業績予想

- 第3四半期までの各セグメントの状況を踏まえ、前提となる第4四半期の為替レートを、USDは75円に変更ないが、ユーロを100円に変更したうえで、業績予想を見直し。
- 売上高は、前回予想を 270億円下回る 8,800億円、
営業利益は、前回予想を 40億円下回る 270億円、
当期純利益は、50億円に修正。
- 営業利益40億円の修正の内訳は、円高の影響 約20億円に加え、インクジェットプリンターにおける物流費の増加などの一時的な要因も含まれている。

戦略の進捗と今後の対応

■ インクジェットプリンター:

- ✓ ビジネスIJP、小型IJPなど新製品が市場において高い評価
- ✓ 大容量インクタンクプリンターとともに、着実な販売
- ✓ 東日本大震災・タイ洪水影響から生産・供給に遅れ、エア輸送で対応し追加的な物流費が発生
- ✓ 上期の本体販売台数ならびに稼働台数減が、下期消耗品需要の回復に影響
⇒ 第4四半期以降も、引き続き数量拡大への取り組み

■ ビジネスシステム:

- ✓ SIDMの中国における徴税需要の鈍化
- ✓ POS関連製品は米州・亜州の小売店舗向けが堅調も、先進国を中心に大型案件の動きが低調
⇒ 新規案件の取り込み加速、販売体制の一層の強化

■ プロジェクター:

- ✓ 中国・アジア、南米市場を中心に全エリアで前年に比べ数量増
⇒ ラインナップ充実、エマージング市場でのさらなる拡大

■ マイクロデバイス:

- ✓ 景気低迷影響を受けるものの、後期中計に向け体制整備は着実に進捗
⇒ 体質強化の加速、ならびに商品戦略の先鋭化

基本戦略は着実に進捗しており、方向感に確かな手応え。課題へ対応しつつ、後期中期経営計画に確実につなげる。

■ 中期経営計画の進捗(1/2)

- インクジェットプリンターは、ビジネスインクジェットプリンターや小型インクジェットプリンター、大容量インクタンクモデルなど、事業戦略の核として取り組んでいる製品は、市場において非常に高い評価をいただき、当第3四半期は、市場環境が悪化する中においても、ほぼ計画どおりに販売することができた。

一方、上期における東日本大震災の影響による生産計画の遅れ、および競合他社の価格攻勢を受けたことによる本体の販売台数の未達を挽回するため、8月後半から急ピッチに生産を立ち上げ。しかし、タイの洪水影響により生産・供給面に遅れが生じる中、市場における強いデマンドに応えるため、エア輸送などで対応したことにより、追加的な物流費が発生。また、消耗品については、上期における本体販売台数ならびに稼働台数減少により、下期の需要回復に影響。

第4四半期は、引き続き当社製品への需要は堅調に推移すると考えている。

2011年度 1,500万台の販売数量目標に取り組み、来期以降、さらなる本体・消耗品の販売拡大につなげる。

- ビジネスシステムは、SIDMについては、上期堅調に推移していた中国の徴税需要の鈍化により、当第3四半期は計画未達。中期的には、従来のような高水準の導入は見込まれないものの、安定的な需要は継続する見込みであり、加えて農村や銀行などにおける新規需要の立ち上がり、しっかりと対応。また、POS関連製品は米州、亜州の小売店舗向けは堅調に推移しているものの、先進国における景気低迷の影響や大型案件の回復に遅れがあることから、計画未達。

第4四半期は、導入コストが低いインテリジェント化した製品などの新規領域の拡大と、販売力の一層の強化に取り組み、来期以降の安定的な成長を目指す。

戦略の進捗と今後の対応

■ インクジェットプリンター:

- ✓ ビジネスIJP、小型IJPなど新製品が市場において高い評価
- ✓ 大容量インクタンクプリンターとともに、着実な販売
- ✓ 東日本大震災・タイ洪水影響から生産・供給に遅れ、エア輸送で対応し追加的な物流費が発生
- ✓ 上期の本体販売台数ならびに稼働台数減が、下期消耗品需要の回復に影響
⇒ 第4四半期以降も、引き続き数量拡大への取り組み

■ ビジネスシステム:

- ✓ SIDMの中国における徴税需要の鈍化
- ✓ POS関連製品は米州・亜州の小売店舗向けが堅調も、先進国を中心に大型案件の動きが低調
⇒ 新規案件の取り込み加速、販売体制の一層の強化

■ プロジェクター:

- ✓ 中国・アジア、南米市場を中心に全エリアで前年に比べ数量増
⇒ ラインナップ充実、エマージング市場でのさらなる拡大

■ マイクロデバイス:

- ✓ 景気低迷影響を受けるものの、後期中計に向け体制整備は着実に進捗
⇒ 体質強化の加速、ならびに商品戦略の先鋭化

基本戦略は着実に進捗しており、方向感に確かな手応え。課題へ対応しつつ、後期中期経営計画に確実につなげる。

■ 中期経営計画の進捗(2/2)

- プロジェクターは、第3四半期の販売数量は、先進国における政府支出の削減による教育需要減少の影響などにより計画未達となったものの、中国やアジア、南米市場を中心に全てのエリアで数量増となり、過去最高の四半期販売数量。引き続き、シェアNO.1の強みを活かしたラインアップの充実とともに、成長するエマージング市場での数量拡大を目指す。
- マイクロデバイスについては、景気低迷などの影響を受けているものの、来期以降の業績回復に向けた体制整備は、着実に進捗。
リリースのとおり、販売面における事業強化への取り組みとして、エプソントヨコムの水晶デバイス事業に関する営業機能をセイコーエプソンに移管。これにより、半導体の販売機能と一体化した強固な販売体制を整備。また、製品面についても、従来から取り組んでいる水晶デバイス用半導体の内製化や、組立・パッケージ技術の徹底活用などにより、コスト改善を進めると同時に、QMEMS、センシングなど、当社の技術の特長や強みを活かした商品戦略の先鋭化を進めていくことで、事業構造の転換を進める。
- 以上のとおり、SE15前期中期経営計画の基本戦略は着実に進捗しており、方向感には確かな手ごたえを感じている。引き続き、残された課題に対応するとともに、マクロ環境、景気動向、円高などの経営環境をしっかりと見据えたうえで、2012年度から始まるSE15後期中期経営計画に、着実に繋げる。

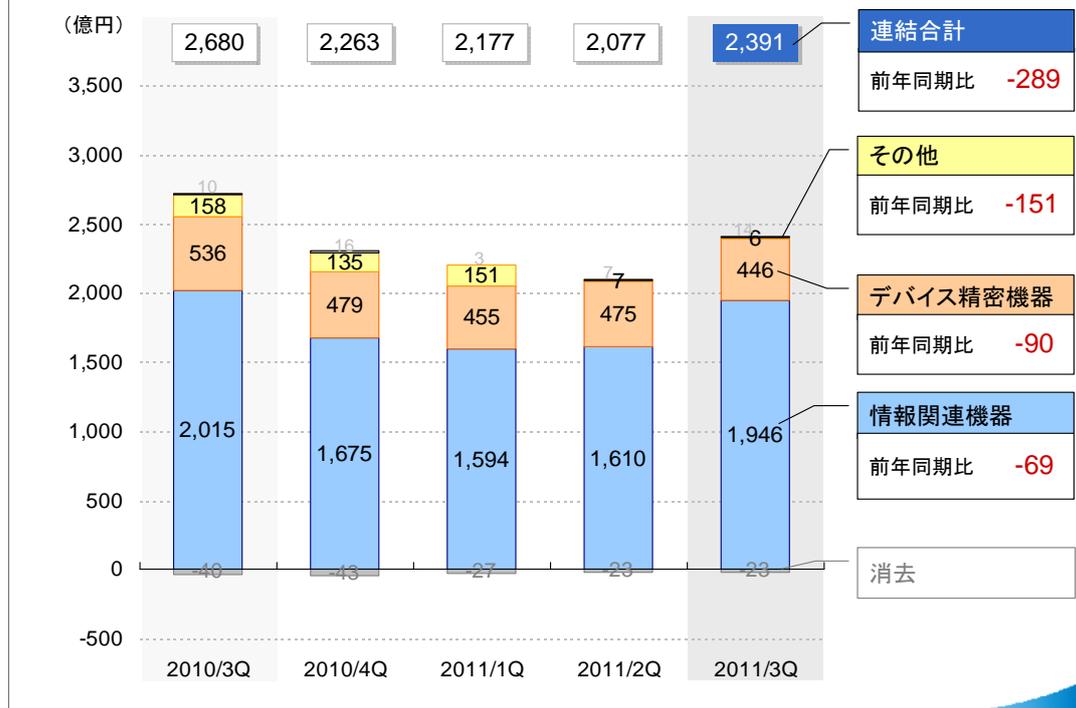
1. 概要

2. 詳細

1) 2011年度 第3四半期決算

2) 2011年度 業績予想

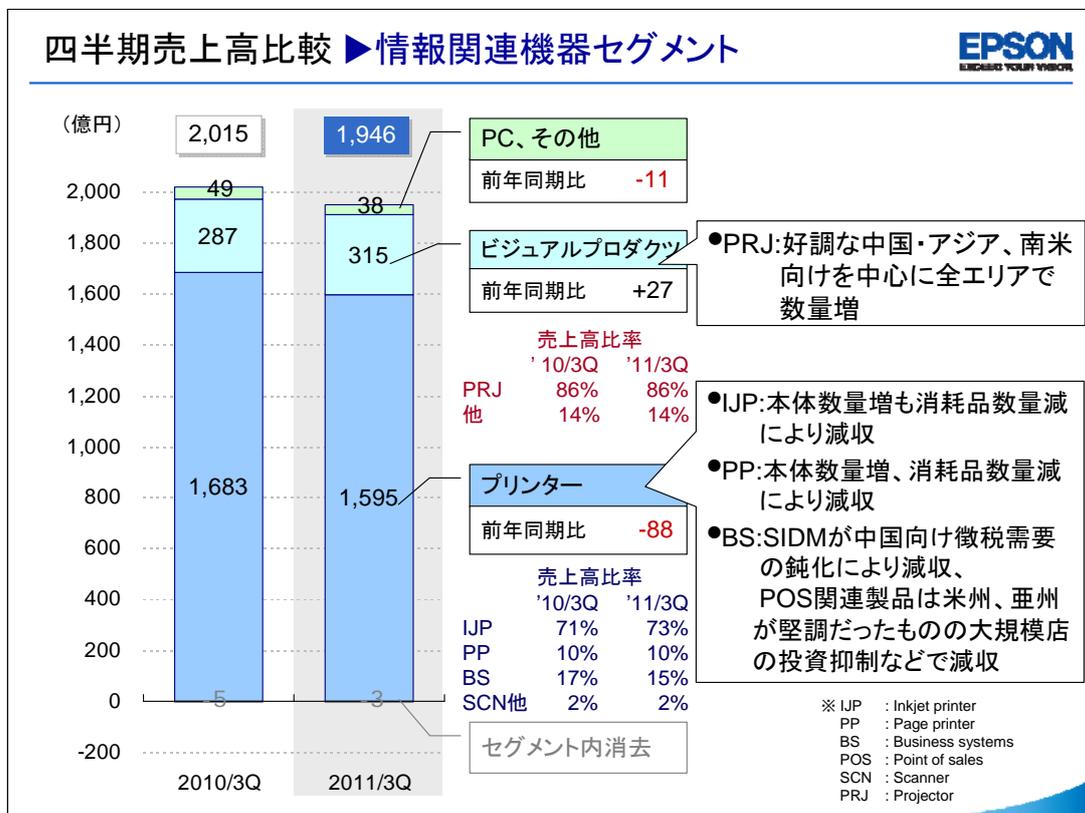
四半期売上高推移 ▶ 事業セグメント別



■ 事業セグメント別の 四半期 売上高推移

- 情報関連機器セグメントは、前年同期比 69億円の減収、デバイス精密機器セグメントは、前年同期比 90億円の減収。
- その他セグメントの減収は、中・小型液晶ディスプレイ事業の終結によるもの。
- なお、当四半期の売上高の為替影響は、情報関連機器セグメントを中心に、約90億円のマイナス影響。

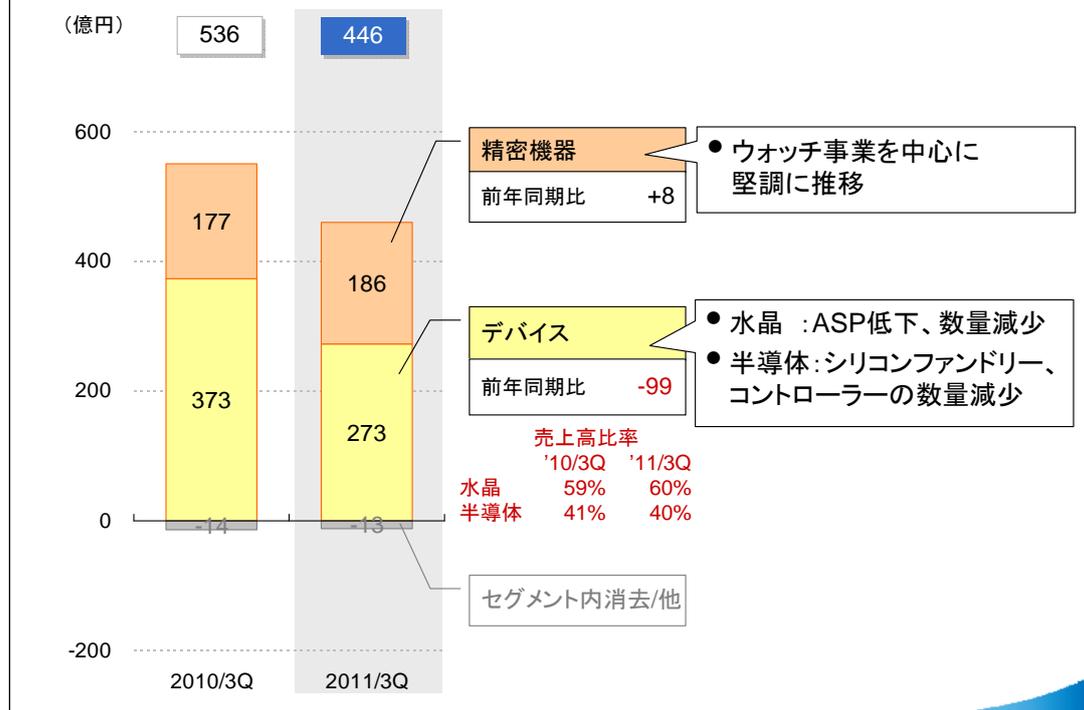
四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



■ 情報関連機器事業セグメントの 第3四半期 売上高

- プリンター事業は、88億円の減収。インクジェットプリンターは、本体は数量増となったものの、消耗品の数量減により減収。
- 本体の地域別の市場環境は、日本市場は震災からの復興需要もあり前年に比べ伸びたものの、欧州は前年並み、北米は前年を下回る水準。そうした中、当社は日本市場における競合他社の供給不足に伴う需要増に対応するため、高付加価値で印刷ボリュームが多い製品を、優先的に日本市場に投入。また、欧米においては、競争力の高い新製品を投入するとともに、亜州において大容量インクタンクモデルの拡販に取り組む。その結果、日本、欧州、亜州は数量増となるが、米州は製品の供給が間に合わず、数量減。
- 消耗品は、日本市場では数量増となったものの、海外市場は上期における本体の販売数量減による稼働台数減少の影響を受け、数量減。
- ページプリンターは、新製品を中心に数量増となったものの、消耗品が数量減となったことや円高の影響を受けたことなどにより、減収。
- ビジネスシステムは、減収。SIDMが中国向けの徴税需要が鈍化していることに加え、POS関連製品が米州や中国の小売店舗向けには堅調なもの、先進国の大規模店舗における投資抑制の影響を受けた。
- ビジュアルプロダクツは、プロジェクターが中国・アジア市場、ならびに南米市場向けを中心に全ての地域において販売数量を伸ばしたことにより、増収。
- 社内計画との比較について。
- インクジェットプリンターの売上高は、計画を下回った。本体は、年末商戦において新製品を中心に高い評価をいただき、ほぼ計画通りとなったものの、消耗品が景気低迷による需要の減少や、本体稼働台数減少の影響が想定以上だったことから、未達。
- ビジネスシステムは、SIDM、POS関連製品ともに未達。
- ビジュアルプロダクツは、プロジェクターが欧米先進国の教育需要の減少が想定を上回ったことなどから、未達。
- セグメント全体では計画を下回った。

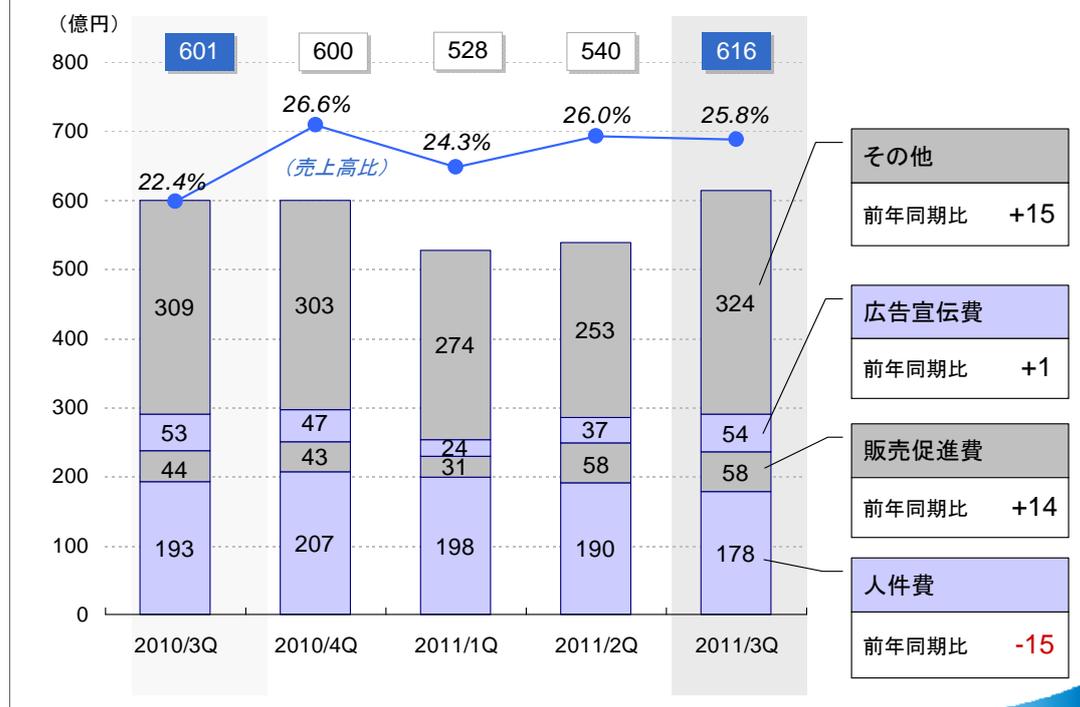
四半期売上高比較 ▶ デバイス精密機器セグメント



■ デバイス精密機器事業セグメントの前年同期比較

- デバイスは、
水晶デバイスが、ASPの低下、ならびに景気低迷による需要の減少により、
半導体が、シリコンファンドリーの数量が減少したことに加え、コントローラーの数量減により、減収。
- 精密機器は、ウォッチ事業を中心に堅調に推移し増収。
- 社内計画との比較では、
水晶デバイス事業を中心に、想定したほど需要が戻らなかったことから数量減となり、売上は未達。
- 精密機器は、ウォッチ事業を中心に計画を上回った。

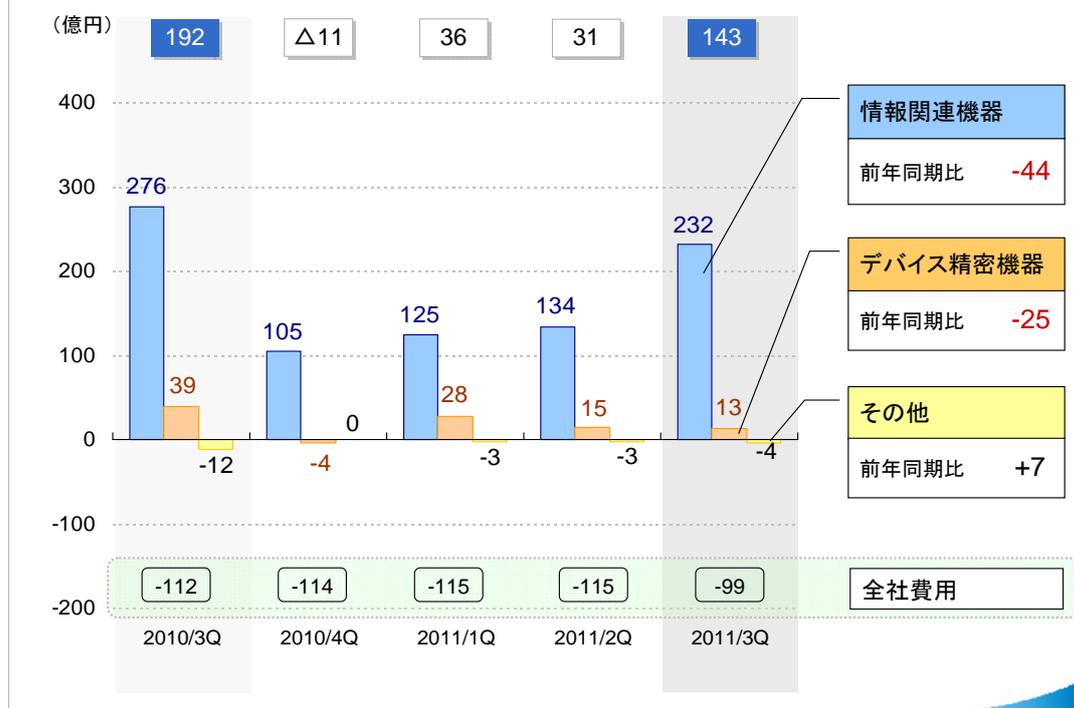
四半期販売費及び一般管理費推移



■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 費用の効率的な執行に努めたが、年末商戦向けの競争力の高い製品の販売拡大に向け、積極的に販売促進費を投入したこと、ならびに東日本大震災と、タイの洪水に起因する物流費の増加により販売管理費は増加。

四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別



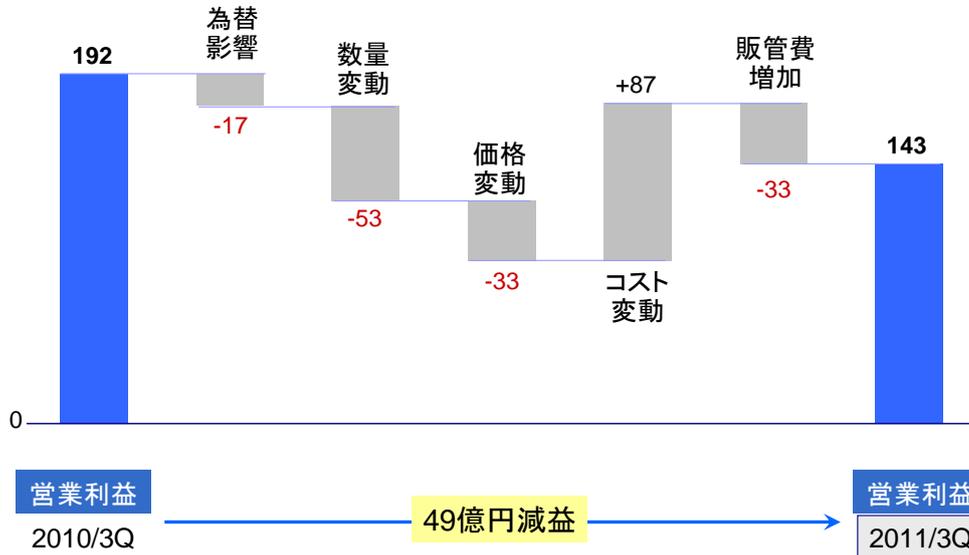
■ 事業セグメント別の 四半期営業利益推移

- 全社として為替影響は、約17億円のマイナス影響。
 - 情報関連機器は、前年同期比 44億円減益の 232億円。
 - インクジェットプリンターは、小型化したプラットフォームを用いた製品を、新たに投入した効果により、本体の収益性は改善したが、追加的な物流費が発生したことに加え、消耗品の数量が減少したことにより、減益。
 - ビジュアルプロダクツは増収により、ページプリンターはコストダウン効果により、増益。
 - ビジネスシステムは、SIDMの減収により減益。
 - デバイス精密機器は、精密機器が増収による増益となったが、半導体と水晶デバイスが減収となったことにより、前年同期比 25億円減益の 13億円。
-
- 社内計画との比較について。
 - 情報関連機器は、ビジュアルプロダクツは ほぼ予想どおりとなったが、インクジェットプリンターの消耗品の売上未達およびビジネスシステムの売上未達により、社内計画を下回った。
 - デバイス精密機器は、水晶デバイスが売上未達となったものの、精密機器が計画を上回ったことに加え、各事業における変動費改善への取り組みの効果と、固定費の削減などにより社内計画を上回った。

営業利益増減要因分析



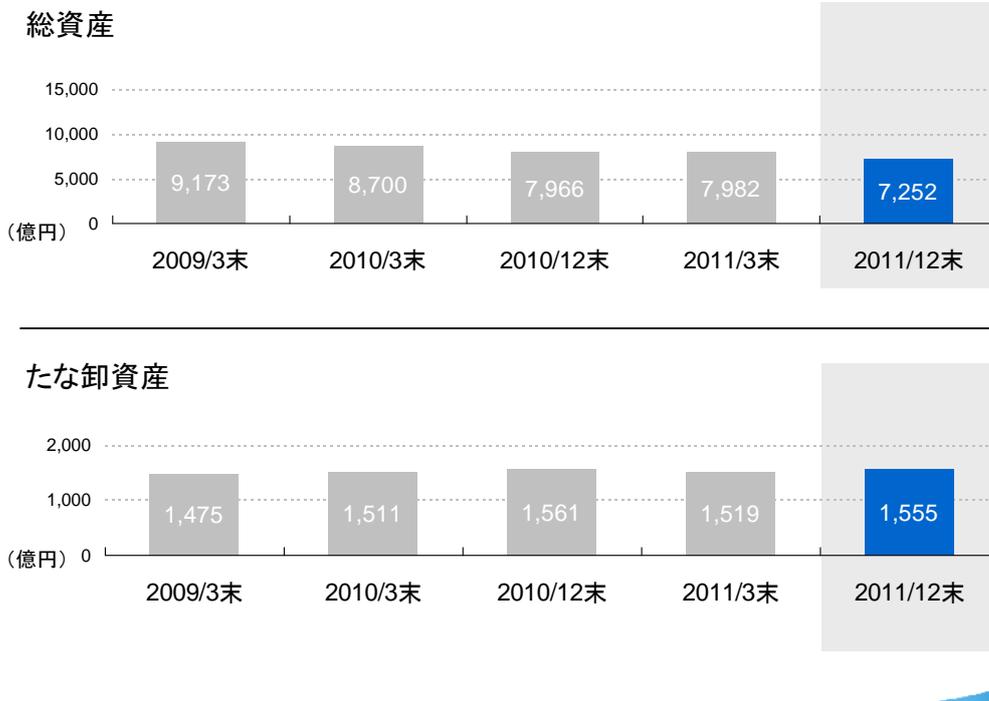
(億円)



■ 営業利益の前年同期比の要因分解

- 2010年度 第3四半期の営業利益 192億円 に対し、コスト変動の増益要因があったものの数量変動、価格変動、販管費増加などの減益要因があり、当四半期営業利益は143億円。

貸借対照表主要項目推移



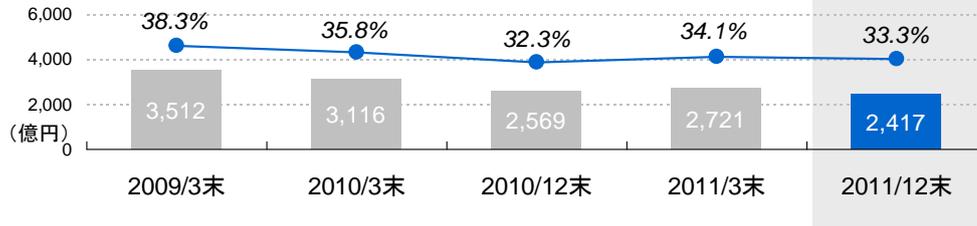
■ 貸借対照表の主要科目

- 総資産は、現金及び預金、ならびに有価証券の減少に加え、設備投資の精査、厳選による有形固定資産の減少などにより、前期末に比べ 729億円減少。

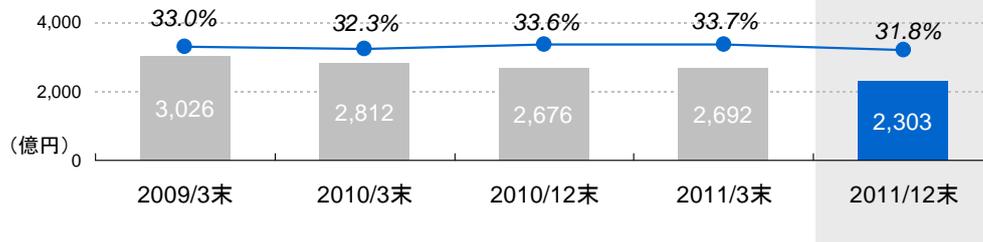
貸借対照表主要項目推移



有利子負債・有利子負債依存度



自己資本・自己資本比率



*有利子負債:リース負債を含む
*自己資本:純資産合計-少数株主持分

■ 貸借対照表の主要科目

- 有利子負債は、借入金の返済を進めたことにより 前期末に比べて 304億円減少し、総資産の有利子負債依存度は 33.3%。
ネット有利子負債は、1,007億円。
- 自己資本は、昨年11月に実施した自己株式の取得や為替換算の影響などにより、389億円減少し、その結果、自己資本比率は 31.8%。

1) 2011年度 第3四半期決算

2) 2011年度 業績予想

<11月14日予想について>

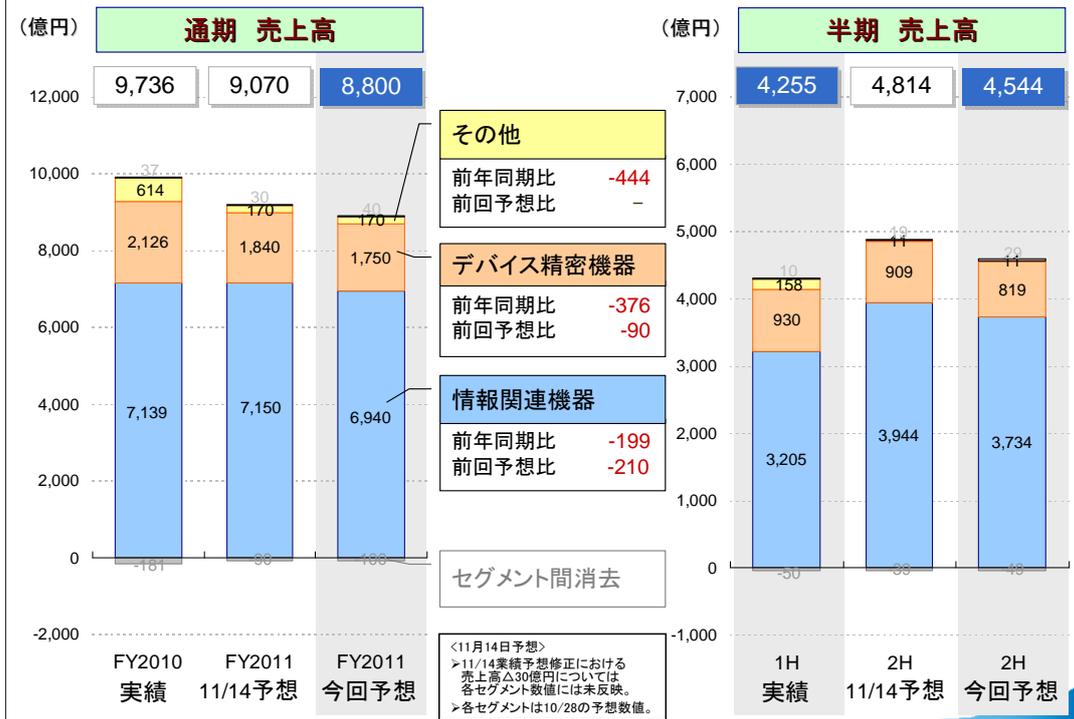
- ✓ 11/14の業績予想における売上高△30億円、営業利益△20億円は、各事業セグメントならびに、各事業には未反映。
- ✓ 各事業セグメントならびに、各事業の数値は、10/28時点の予想数値。

■ 2011年度の業績予想

<11月14日予想について>

- 11月14日に行った、タイの洪水影響による業績予想修正については、全社損益のみで、各セグメントならびに事業に展開した数値は公表していない。
- 従って、各セグメントならびに事業の予想数値は、10月28日に公表した数値を記載。

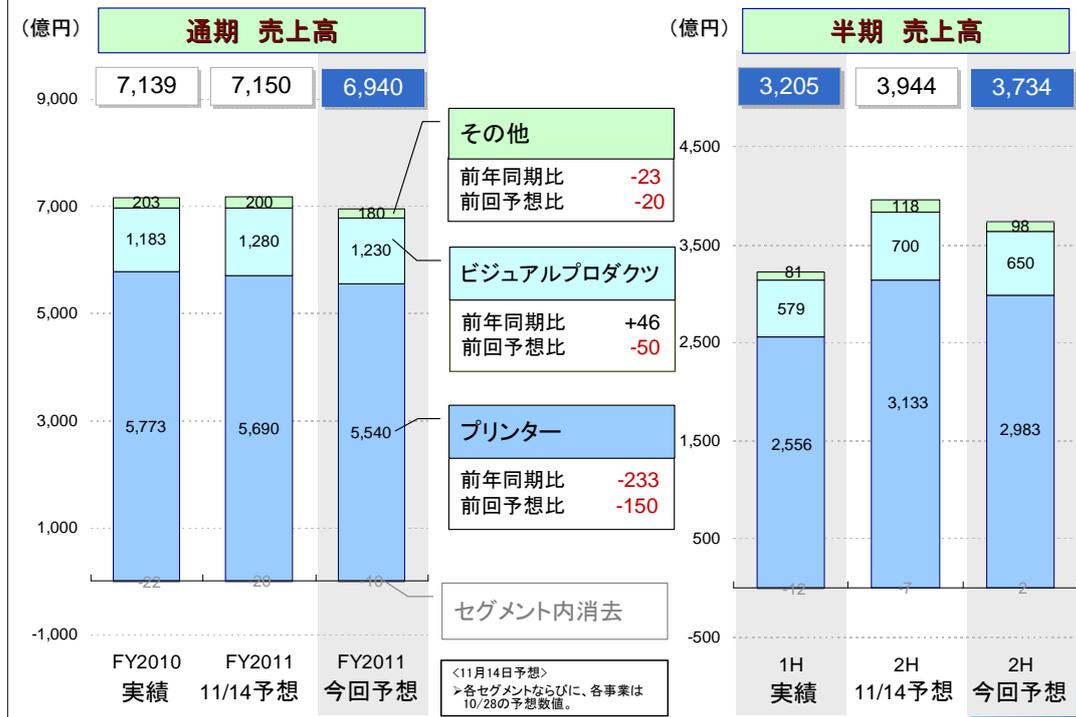
2011年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



■ 2011年度の 事業セグメント別 売上高予想、上期 / 下期別の内訳

- 情報関連機器の通期売上高は 6,940億円、
- デバイス精密機器は 1,750億円に、それぞれ下方修正。

事業別売上高予想 ▶情報関連機器セグメント

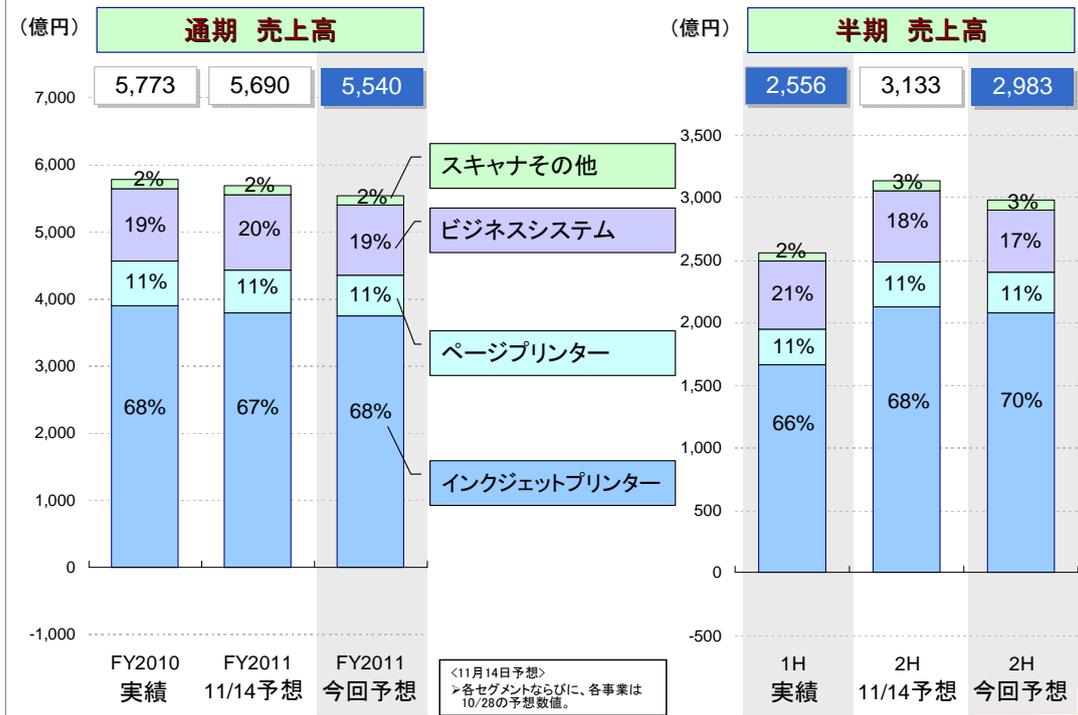


■ 情報関連機器事業セグメントの事業部門別売上高予想の内訳

- ▶ ビジュアルプロダクツは、足元の市場動向ならびに競合他社の動向を踏まえ、通期での売上高を1,230億円に見直し。

プロジェクター市場では、中国、アジアを中心に堅調な需要が見込まれる。競合他社の動向を注視しながら、充実した製品ラインアップで需要を取り込み、計画の達成に取り組む。

事業別売上高予想 ▶ プリンター事業



■ プリンター事業の製品別売上高予想

➤ 現時点における市場環境を踏まえた上で、売上高予想を見直し。

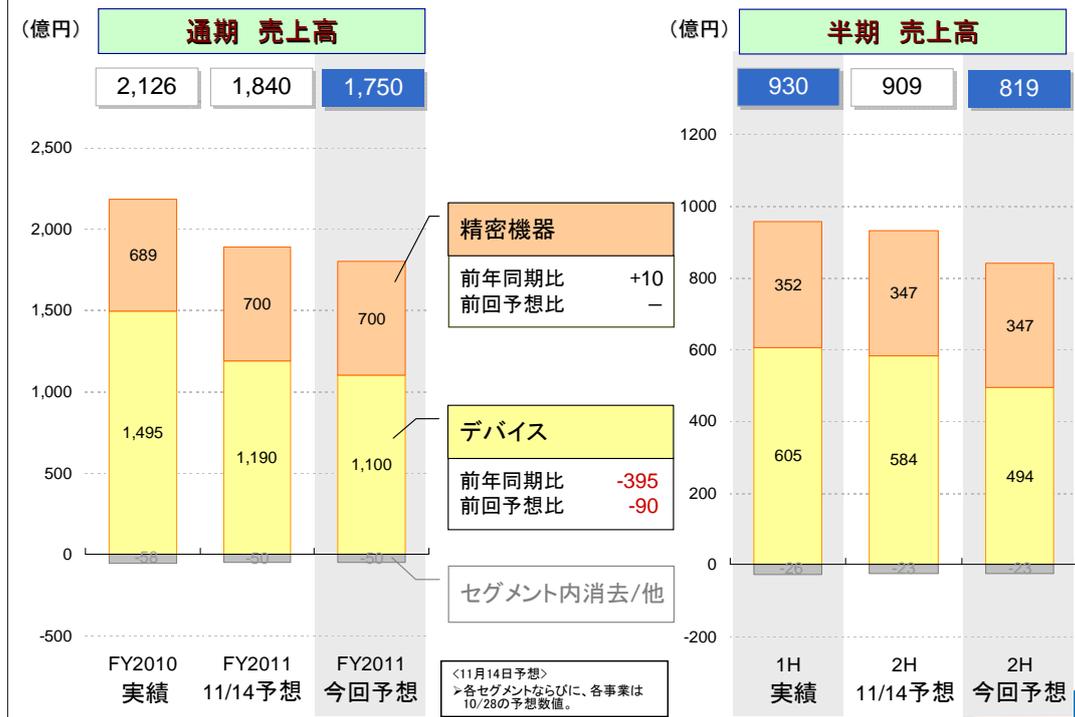
➤ インクジェットプリンターは、基本戦略の前提に変更なし。

本体数量は、期初計画どおり、年間 1,500万台を目標に取り組む。足下では、本体の販売は好調を維持しており、第4四半期は引き続き、前年を上回る数量を計画。市場ならびに競合の動向を見極めつつ、最適な販売施策を展開し、目標数量の達成を目指す。一方、消耗品については、急速な回復は期待できないものの、本体の販売を着実に伸ばすことにより、来期以降の回復を目指す。

➤ ビジネスシステムも、第3四半期の動向を踏まえ、予想を見直し。

第4四半期においては、新規案件などのビジネスチャンスの取り込みを確実に行うとともに、来期以降の徴税需要や、新規ビジネス獲得に向けた対応を進める。

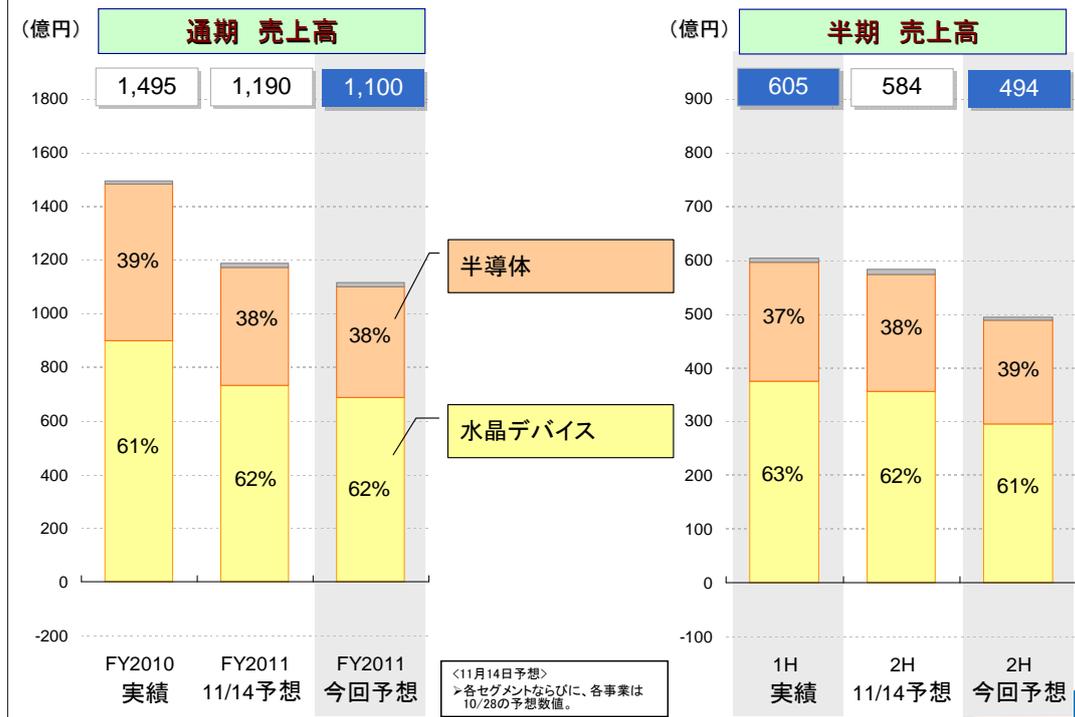
事業別売上高予想 ▶ デバイス精密機器セグメント



■ デバイス精密機器セグメントの事業部門別売上高予想の内訳

- 精密機器は、ウォッチ事業を中心に引き続き堅調に推移する見込み。

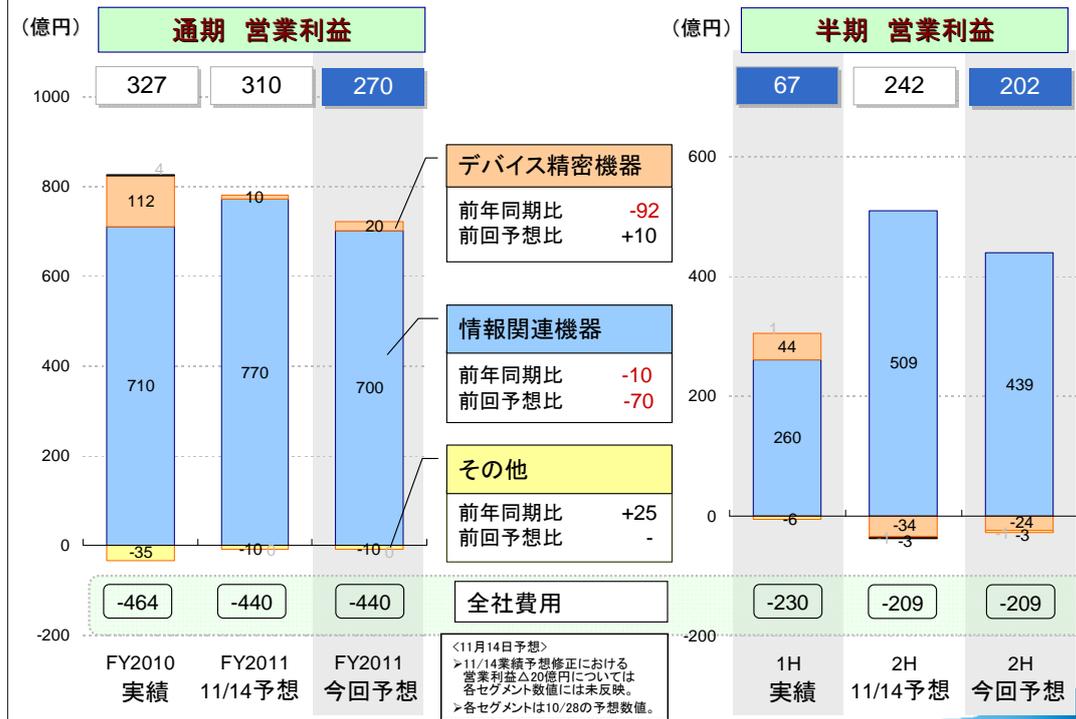
事業別売上高予想 ▶ デバイス事業



■ デバイス事業の製品別売上高予想

➤ 水晶デバイス、半導体ともに、需要回復の遅れを反映した上で、売上高を見直し。

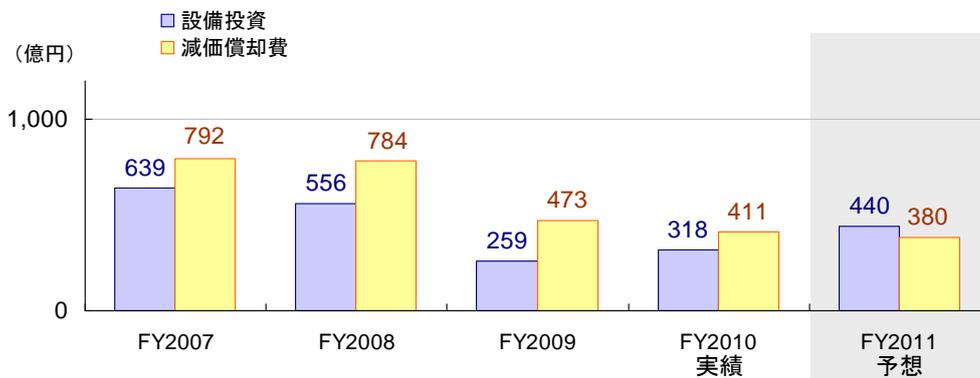
2011年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



■ 営業利益の事業セグメント別予想、上期 / 下期別の内訳

- 情報関連機器は、売上高の見直しを反映し、前回予想を70億円下回る 700億円を予想。販売状況に応じた製造・在庫の適切なコントロール、および費用の効率的な執行を行っていく。
- デバイス精密は、変動費や、固定費改善などの効果を織り込み、前回予想を上回る20億円を予想。

設備投資・減価償却費予想



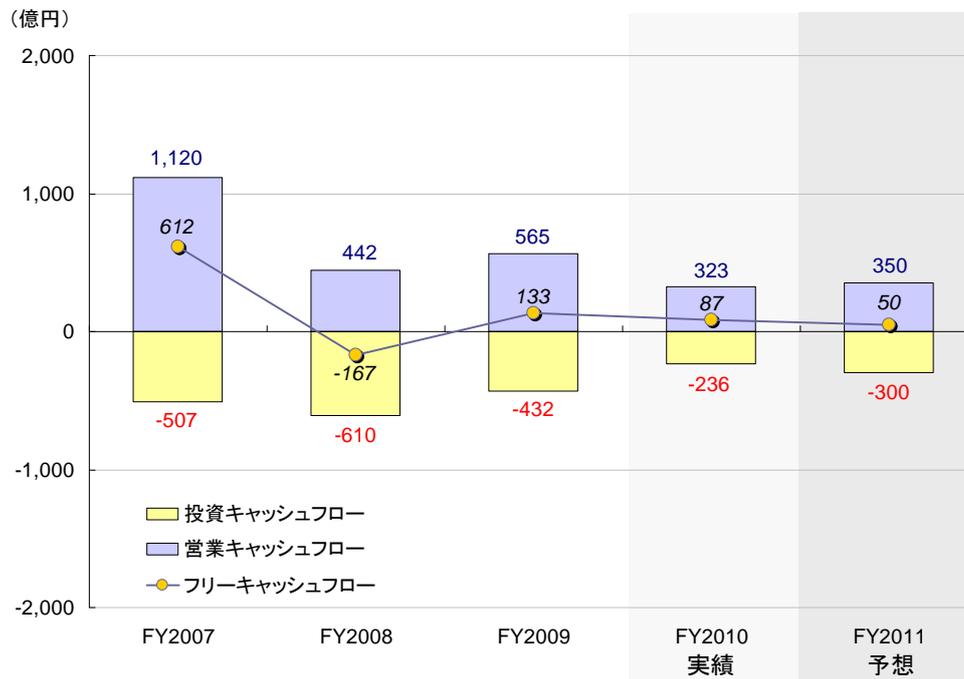
| <セグメント別内訳> | FY2010実績 | | FY2011予想 | |
|------------|----------|---------|----------|-------|
| | 設備投資 | * 減価償却費 | 設備投資 | 減価償却費 |
| 情報関連機器 | 186 | 245 | 320 | 230 |
| デバイス精密機器 | 102 | 103 | 80 | 100 |
| その他・調整額 | 29 | 62 | 40 | 50 |

* FY2010実績の減価償却費: 10月28日配布資料から確定値に置き換え デバイス精密機器101⇒103億円、その他・調整額 63⇒62億円に置き換え

■ 設備投資と減価償却費

- 設備投資は 440億円、減価償却費は 380億円に見直し。

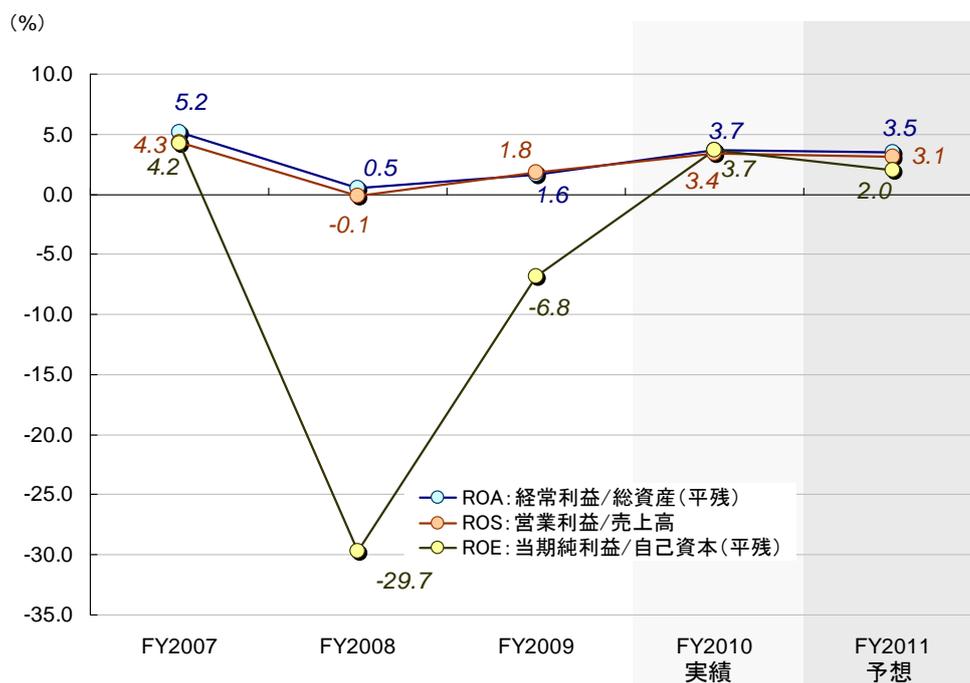
フリーキャッシュフロー予想



■ フリーキャッシュフロー

- 業績予想の修正にともなって、前回予想100億円から 50億円に見直し。

主な経営指標の推移



■ 主な経営指標

ROSは 3.1 %、 (営業利益率)

ROAは 3.5 %

ROEは 2.0 %

EPSON
EXCEED YOUR VISION